

2 (1) 各教科・領域を系統的に

🔗 小さな実践

各教科・領域で、小学校1年から中学校3年までの学習内容や育成すべき資質・能力について、時間をかけて見直すことにより、各教科・領域の目指す子ども像を探っていく実践です。

実践学校 U小中学校

実践対象 全職員

実践時期 通年

① 単元配列の確認

月1回程度の教科会で、小学校1年から中学校3年までの単元配列一覧を見ながら、学習内容・方法等について、確認をしました。特に、小学校と中学校で共通している学習内容・方法等について、重点的に意見交換を行いました。

職員の声1…「小学校で指導した内容の一部を、中学校でもほとんど同じ内容で学習していることがわかった。しかし、同じように見えた内容でも、小学校と中学校の違いがあることがわかった。その違いを知った上で、小学校の指導をすることが大切だと感じた。」

職員の声2…「数学では、数直線を使うことが多い。小学校では、予想以上に丁寧に数直線を扱っていることがわかったため、中学校では、手立てとしての数直線をもっと利用させてもよいことがわかった。」

② 系統的なカリキュラムの作成

各教科会では、本校の児童生徒の実態から、育成すべき資質・能力や学習内容・方法等を決め、系統的に効率よく学習できるようなカリキュラムの作成を始めました。

- ・ 授業研究会
- ・ 各教科の学習会（指導主事による指導助言）

H30 図画工作・美術科 資質・能力別「つける力」・「題材」系統表(新学習指導要領をもとに)

重点的指導	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
重点的指導	体全体の感覚を働かせて対象から感じ取っていく		色や形、材料の組み合わせなどによる感じ方の変化や感じ方の差異などを豊かに感じ取っていく		豊かに感じ取ったことや造形的な特徴を総合的に生かしていく		豊かに感じ取ったことや造形的な特徴を基に主題を生み出していく		豊かに深く感じ取ったことや造形的な特徴を基に主題を深めていく
主体的に学習に取り組む態度	楽しく		つくりだす喜びを味わう 進んで		主体的に		創造活動の喜びを味わい 楽しく		主体的に 楽しむ
			感性を育む				美術を愛する心情を育む 培う		感性を豊かにする 頁む
	楽しい生活		楽しく豊かな生活を創造しようとする態度		楽しく豊かな生活		心豊かな生活を創造していく態度		豊かな情懷を培う

○横軸は学年、縦軸は、「各学年の重点的指導」「主体的に学習に取り組む態度」「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」 なお、縦軸は、教科会が大事にしたいことを標記した。

図画工作・美術科の系統的なカリキュラム表（一部）

職員の声 3 …「本校

の国語は、日頃の授業や各種学力調査結果から、書く力が課題である。全ての学年の書く力に関わる学習場面を系統的に見ていくと、どの学年で、どのような方法でどのように書く力を高めていけばよいのかが見えてきた。」

9年間の子どもの成長を見通した書くことの指導							
1 書く学習を通して願う子どもの姿							
◇言葉がもつ価値に気付くとともに、互いの思いや考えを伝えあうとする子ども。(学びに向かう力) ◇根拠を明確にし、文章全体の構成や表現の仕方を工夫して自分の考えを書く子ども。(適切に表現する力)							
2 9年間を見通した書くことの指導							
	初 等 部						
	1年(小1)	2年(小2)	3年(小3)	4年(小4)	5年(小5)	6年(小6)	
目 的	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く。通んで文章を書くこととする。	相手や目的に応じて、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く。工夫しながら書くこととする。	新聞や目的に応じて、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く。工夫しながら書くこととする。	新聞を作ろう[7月]	事実や資料を根拠にして、自分の考えたことが明確に伝わるように、文章全体の構成を考えて書く。	意見を聞き合って考えを深め、意見を書こう[9月]	根拠を明確に伝えよう
中心となる教材と学習内容	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を集める。 エ 文章を読み返す習慣をつけるとともに間違いないに気付き直す。	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書く。 オ 書いたものを読み合ひ、よいところを見つけて感想を伝え合う。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する。 オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。	ウ 書こうとするこの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事柄を挙げて書く。 オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。	イ 自分の考えを明確に表現するための、文章全体の構成の効果を考えて書く。 ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や根拠に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする。	イ 自分の考えを明確に表現するための、文章全体の構成の効果を考えて書く。 エ 注や引用などの情報を加えて、意見が読得力をもつよう書く。	ウ 根拠となる事柄を集め、表現や構構を明確に伝える文章を考える。
育てたい見方・考え方	○対象をよく見て、「何かがへです。」と文や文章を書く。	○「はじめ」「中」「終わり」を意識しながら書く。	○報告するために必要な事柄を調べ、報告する文の構成に沿って文章を書く。	○自分の考えが明確になるように段落相互の関係などに注意して文章を書く。 ○目的や必要に応じて理由や事柄を挙げて書く。	○事実と考えが区別できるように、言葉の使い方を考える。	○自分の意見が読得力をもつよう、具体例や資料を集め、意見を明確に伝える文章を考える。	○対象をよく見て、「何かがへです。」と文や文章を書く。
学習方法	・絵を描いたり実物を用意したりして、説明するように書かせる。 ・短冊を使い、主語・述語を意識させながら一文ずつ書かせる。	・「はじめ」「中」に書くことと「中」に書くことを知らせる。 ・付箋にメモを書き、「書」を貼らませる。	・作例で報告する文章の組み立てを確認する。	・どんな新聞を作るか話し合い、取材メモを整理して伝えたい情報を選ぶ。 ・実際の新聞を見る。	・作例で活動報告書の書き方を学び、実際に活動報告書を書く。 ・作った活動報告書を読み合う。	・自分の意見が読得力をもつよう、具体例や資料を集める。 ・読得力が上がるように意見の構成を考える。	・自分の考えが読得力をもつよう、具体例や資料を集める。 ・自分の意見が読得力をもつよう、意見の構成を考える。
知識・技能	・書くこととする題材に必要な事柄を集めることができる。	・書くこととする題材に必要な事柄を集めることができる。	・相手や目的に応じて、調べたことなどを決め、必要な事柄を調べることができる。	・新聞の特徴と作り方を知り、記事の内容を決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができる。	・活動報告書の書き方を理解し、必要な内容を考えて、型に沿って書くことができる。	・図書館やインターネットで資料を調べ、必要な情報を要約したり引用したりして用いることができる。	・感じや感想を作品の要素として表現することができる。
学習思考・判断	・対象をよく見て、「何がへです。」と文や文章を書くことができる。	・「初め・中・終わり」の構成を考えて書くことができる。	・調べたことが伝わるように段落相互の関係などに注意して書くことができる。	・「いちばん伝えたい」記事はどれか考え、見出しや振り付けを考えることができる。	・活動内容やそれに対する考えが正確に伝わることを確認し、構成を区別して書くことができる。	・自分の主張を相手に伝えるために工夫できることを確認し、構成を区別して書くことができる。 ・注釈や引用などを用い	・作品の完成度を高めることができる。

国語科の系統的なカリキュラム表（一部）



ここがポイント！

カリキュラムの作成は、時間がかかりませんか。

- ✓ 全ての単元や領域を作成するには、たいへんな労力が必要です。そこで、「今年はこの領域だけ」と決めて、少しずつ作成します。
- ✓ 研修の一つとして、小1から中3までの単元配列一覧を見て、似ている学習内容の単元を探すだけでも今後の授業の参考になります。

③ 授業実践による検証

小学校と中学校で似ている学習内容の授業公開、授業研究会を実施し、系統的なカリキュラムの検証を行いました。

教科	授業公開Ⅰ（小学校）	授業公開Ⅱ（中学校）
国語	1年「しらせたいな、見せたいな」	2年「根拠を明確にして魅力を伝えよう」
社会	6年「わたしたちの願いを実現する政治」	3年「1人1人の積極的な政治参加に欠かせない選挙に行こう大作戦」
算数・数学	6年「資料の調べ方」	1年「資料の活用」
理科	4年「水のすがたと温度」	1年「液体フツフツ大作戦」
図画工作・美術	2年「たのしく うつして」	2年「凸凹デザイン～壁面模様～」
保健体育・体育	5年「ボール運動(ベースボール型)」	1年「球技(ベースボール型)」
外国語活動	4年「Unit 6」	小6年「Who is your hero?」

④ 系統的なカリキュラムによる実践と継続研究

系統性を意識した実践を繰り返し行いながら、系統的なカリキュラムの修正を続けています。

まとめ

- ・ 私たちは、指導内容や方法の系統性を知った上で、授業を行うことは、授業の効率化に結び付き、子どもたちの理解度に関わってきます。
- ・ 教科会によるカリキュラム検討は、再発見があり指導の参考となります。検討を続けることが大切です。また、教科会は職員がまとまる機会の一つとなります。